

# コロナ差別を考える

2月3日(水)、日本医師会は新型コロナウイルス感染症に関連して医療従事者が受けた風評被害が、昨年10～12月までの間に、全国で698件あったとの調査結果を発表しました。医療機関に勤務するというだけで「近寄るな」と言われたり、保育園に子どもの預かりを拒否されたりといった実態です。

1月、岡中では、全校で新型コロナウイルス感染症への偏見・差別についての授業を行いました。



←カバンに付けられた  
シトラスリボン  
→授業のようす



今回の授業は、医療従事者への偏見・差別を中心に構成しました。私たちは自力で病気を治せないとき、どうしても病院を、医療従事者を頼りにしなければなりません。それなのに医療従事者に対しての偏見・差別が起こるという実態はおかしいということを、生徒と一緒に考えたいと思いました。また、「病気↓不安↓差別」という3つの負がスパイラルとなつて感染拡大につながっていることも併せて学習し、私たちにできることは何か、考えました。

昨年からは新型コロナウイルス感染症に対する中傷や差別をなくそうと訴える「シトラス

## 【授業後の感想】

- 3つの感染という中で、今日考えた「差別」は、コロナウイルスと闘っていかなければならない仲間なのに、感染してしまった人やその人たちを支えるナースなどの人たちを差別するのは、これから先、いつコロナが収まるかわからない中で、そのようなことをしていたら、自分たちでウイルスの味方をしているのも何だと思いました。差別をするのではなく、苦しんでいる人を支えてあげるような世界にしたいと思いました。(1年)
- 映像を見て、あらためて医療関係の方は素晴らしいと思いました。コロナが出だして、これまでも大変だった現場がさらに大変になり、人手不足で困難な状況。さらには、働いて人の命を助けることをしているのにひどい声を浴びせられたりと、心身ともにくずれていきそうだなと思いました。本当に、医療の人たちは偉大だと思いました。今自分にできるのはマスク・手洗い・うがい・密にならないことだと思うので、それを徹底し、日々を過ごしていきたいです。(2年)
- 今日の授業を受けてみて、自分も「東京には行きたくないな」とか「××の車のナンバーやん」を言ってしまったことを思い出しました。悪いのはコロナウイルスなのに、その人を悪いと言ってしまっていて、とても最低だと思いました。不安なのはみんな同じなので、一人一人が手洗い・うがい・マスク消毒など、少しでも気を付けることだと思いました。また、少しでも偏見や差別をなくすために、自分がそういうことを思っても、行動しないように気を付けていきたいです。(3年)

リボン運動」が展開されています。その運動も紹介して、実際にリボンを作った学級もありました。授業後の感想の一部を、右に紹介します。

◆ ◆ ◆

感想から、今回の授業であらためて医療従事者に対する偏見・差別に気付いた人、実は自分も同じようにコロナ罹患者に対して偏見・差別を考えていたと気付いた人がいました。

誰にきいても「偏見・差別はおかしい」と言います。しかし、現実には偏見・差別が起きているという実態があります。これは大人も考えなければならぬ問題です。今回の授業から、新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別に関心をもつて、考え続けて行動できる岡中生であってほしいと思います。

(記事内容は「読売新聞」より)

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組/お名前 (ペンネームもO.K.です)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか? (○・×)